

収蔵資料から

其の103 小野涼風宛て牧水書簡



【執筆日】明治35年8月6日
【宛先】西郷村田代小川 小野涼風君
【差出人】坪谷 卯和知人
(拡大)

まーだ四五日都農滞在の筈の處、不圖した事で昨夕帰つて來ました。御手紙もあちらで受取ましたが、ツイ混雜してゝ今まで御返事申さんぢやつた。許して呉れ給い。

すると、君の父上はもう延岡へ御出でになつただらう。何日頃帰られるかね。父上の留守中は来る事が出来るかね。若し出来なけりや、御帰宅になつてから直ぐ來給へ。延岡からも、僕の親友が一人か二人來るといふ様な事が云つて來てである。いづれも曙の會員で、文を談じ歌を説く事の出来る者共です。

微吟（帰省三首）

昔人と泣きて別れし渡場に始めて故郷の言の葉聞きぬ
野や山や胸にも車のめぐり早ふ嬉しひく人また国訛
旅になやみ歸りて叩く柴の戸にいらふる母の声は老ひたり

小野涼風（本名 兵太郎）は現美郷町田代出身で、牧水が延岡中学時代に発行していた雑誌『野虹』に、校外から参加していた文学仲間です。同郷の歌人、小野葉桜とは親戚にあたります。

ハガキでは、延岡から文学仲間が来るので、涼風も来るよう誘っています。また、帰省中に詠んだ歌三首が書かれています。

牧水歌碑めぐり

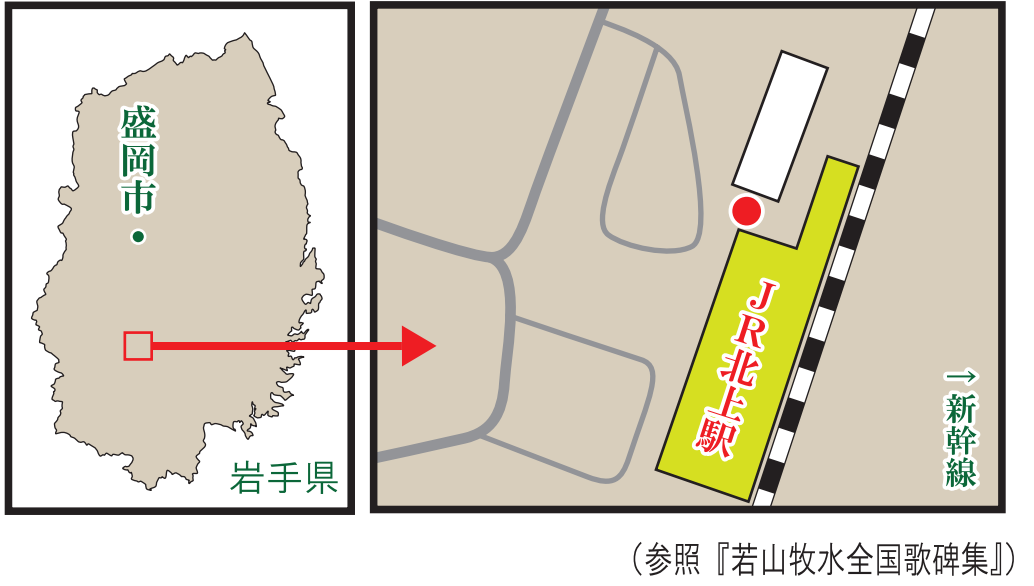
其の104 J R北上駅西口（岩手県）



幾山川こえさり行かば寂しさのはてなむ國ぞけふも旅ゆく牧水

牧水の代表作として広く愛誦されているこの歌が詠まれたのは、明治40年夏の帰省の折、岡山と広島の間にある二本松峠あたりを旅した時といわれています。

それから20年が経った大正15年、喜志子と北海道揮毫旅行に出かけた牧水は、その帰路、北上に住む歌仲間の福地房志を訪ねます。その時に残した書をもとに、北上市が駅の西口に歌碑を建てました。冒頭が「幾山川」となっている珍しい書が刻まれた、全国唯一の歌碑です。



(参照『若山牧水全国歌碑集』)

文学館だより

令和 7 年 8 月 1 日
若山牧水記念文学館
TEL 0982-68-9511
文責 日高 第112号

=若山牧水生誕140年・若山牧水記念文学館開館20年Memorial Year=

短歌実作基礎講座開講 7月15日（火）

これから短歌を作ってみようという初心者を対象に今年度開講しました。長年思い描いていた講座開設が実現できうれしく思います。学ぶ楽しさ、作る楽しさを味わう講座にしていきたいと思っています。

1	ねらい	みそひともし
	(1)	5・7・5・7・7の三十一文字のリズムを知り、短歌に触れる機会をもつ。
	(2)	短歌実作および鑑賞を通して、短歌の基礎を学ぶ。
	(3)	歌人若山牧水が東郷町坪谷に生まれたことを知り、「短歌のまち日向」づくりを盛り上げる。
	(4)	宮崎日日新聞「宮日芸芸短歌部門」等への投稿気運を高める。
2	主催	日向若山牧水顕彰会
3	アドバイザー	日高尚子氏 日向市在住 「心の花」所属 鈴木睦代氏（補佐） 日向市在住

講座生16名の申し込みで第1回がスタートしました。「作りたいけど作り方がわからない」「投稿する勇気がなく諦めていた」「介護が終わりボケていくことがこわい」「“アレ”“アレ”で済ませず丁寧にことばを探していきたい」「何でも挑戦みんなで参加」などなど、講座開講を楽しみにしていた声がたくさん聞けました。アドバイザーの日高尚子さんからは「62歳から短歌を始めた。ペンと紙があれば誰でもできる（伊藤一彦）。」の言葉をいただきました。よし!私もこれから!!と肩を叩いてもらったような勇気をもらいました。

それでは、初投稿歌を数首・・・

古古古米長蛇の列に並び待つ明日も並ぶいつまで並ぶ
誘われて初心者クラスワクワクと短歌まなびて人生仕上げ
喜寿祝い同級生と再会すおしゃべりはずみ時間が足らず
勇気出し短歌講座に申し込み待ち受け人に歓迎されし
生きていた ライン開通五年越し倅二十九男ってこんなもののな

今回は8月19日（火）。どんな歌が揃うか楽しみです。

第15回牧水・短歌甲子園の夏がやってきた！

25校50チームから選ばれた12校12チームの高校生たちが日向市に集結。三十一文字に懸ける熱い夏が今年もやってきました。初出場校は5校。高校生から学ぶことの多いこの2日間、今年もたくさんの短歌に触れたいと思います。お近くの方、会場で観戦されませんか。入場無料です。

8月9日（土）9：20～	一次リーグ	日向市中央公民館
8月10日（日）9：00～	準決勝・決勝	日向市中央公民館

本選出場校

埼玉県星野高等学校（4）	神奈川県立光陵高等学校（4）
東京都NHK学園高等学校（初出場）	愛知県名古屋高等学校（初出場）
岐阜県立飛騨神岡高等学校（2）	岡山県立岡山朝日高等学校（初出場）
福岡県立八女高等学校（5）	
宮崎県立宮崎西高等学校（13）	宮崎県立宮崎商業高等学校（12）
宮崎県立宮崎北高等学校（初出場）	宮崎県尚学館高等部（12）
宮崎県立延岡工業高等学校（初出場）	※（ ）は本選出場回数です。

地元宮崎からは

表彰式終了後、今年は「牧水・短歌甲子園 OBOG 会みなど」×「アイドル歌会」が開催されます。初の試みで今年限りの開催です。どんな展開になるのでしょうか。

牧水生誕140年記念特別企画「牧水・短歌甲子園 OBOG 会みなど」×「アイドル歌会」			
日時	8月10日（日）13：00～	※牧水・短歌甲子園終了後	
会場	日向市中央公民館	※牧水・短歌甲子園同様入場無料	
第一部	エキシビジョンマッチ	みなとVSアイドル歌会	題詠「水」
第二部	歌会	選者と出演者が選ぶ、推しの一首	題詠「生」

第7回「みなと展」開催しています

牧水・短歌甲子園を巣立っていった卒業生たち。卒業してもなお牧水・短歌甲子園にかかわり続けている OBOG 会「みなと」。今年も牧水・短歌甲子園当日は、フィールドアナウンサーをはじめ運営スタッフとして陰となりひなたとなって大会を盛り上げてくれています。今も歌を詠み続けている彼らが今年も文学館に歌を寄せてくれました。この「みなと展」は今年で7回目を迎えました。

題詠「望」	自由詠	氏名右の回数は牧水・短歌甲子園出場回を表します
望遠鏡逆さに覗けばわれの目の夜闇に月を探せり君は		海老原愛（第2、3回）
恋うならば海へ向かって　ため息のパタフライエフェクトを信じる		海老原愛（第2、3回）
ジャカラングの木下を遠ざかる夜の傘をあるいは羨望として		狩峰隆希（第5、6回）
ひとつ光（かけ）させばあまたの影が生るいつからここは野外球場		狩峰隆希（第5、6回）
狙ってたあの子に振られたと切り出す同期の顔は今季絶望		宮本卓明（第5回）
潜望鏡で見る荒海のひとしづき　またミサイルがニュースに落ちる		久永草太（第6回）
コカ・コーラ開けてふしゅっというたびに見えないけれど逃げていくもの		久永草太（第6回）
世に潜み太公望の針垂らす待てど待てども湖畔にひとり		今東壮之晟（第7回）
放課後が良き日ハレの日は飛びドレスの白に滲んで溶ける		今東壮之晟（第7回）
曖昧が恋しい五月　望月の輪郭とてもはつきりしてる		後藤匠人（第9、10、11回）
パーベキューの煙の向こうはぼやぼやと博士課程に行こうかどうか		後藤匠人（第9、10、11回）
目を閉じて放課後をただ待っていた望まなくても夜はくるのに		三井幸乃（第11、12回）
君は眼を望遠レンズのようにして私に見えない船を指差す		古谷明希歩（第12、13回）
鳳仙花弾ける前に摘みとって綺麗なわたしのふりをしている		古谷明希歩（第12、13回）

「みなと展」移動展開催		
8月9日（土）～8月10日（日）	日向市中央公民館	
8月11日（月）～8月31日（日）	若山牧水記念文学館	
9月1日（月）～9月12日（金）	日向市役所市民ホール	

牧水先生の一首 折に触れて出会う一首を紹介しています

おもひやるかのうす青き峡のおくにわれのうまれし朝のさびしさ
おもいやる かのうすあおき かいのおくに われのうまれし あさのさびしさ

牧水は明治18年8月24日早朝、朝日の射す縁側で生まれました。今年は生誕140年。「明治十八年八月廿四日、その日は陰暦では恰度お盆の十六日に当つてゐた相だ。その朝とりわけて気分よかつた母を二人の姉は東の縁側へ連れ出して座らせてゐた。」「何の用意もなしに急に産気づいて私は生れたのだ相である。」「此処でお前はことんと音をさせて生れたのだよ、と其後もう余生生長してから度々姉どもは私をその縁側へ連れて来てはからかつた。』『おもひでの記』より 牧水は二人の姉たちによって繁（しげる）と命名された。

おしらせ	9月17日（水）は牧水の命日。坪谷では第75回牧水祭を開催します。前日9月16日（火）は、「若山牧水生誕140年記念第75回牧水祭特別企画」を開催します。
■特別企画①「牧水ゆかりの地めぐり」	8：30～14：00 【参加料】無料（※昼食代1,000円）
■特別企画②「記念シンポジウム」	14：30～17：00 【参加料】無料 【会場】日向市中央公民館
■特別企画③「交流会（あくがれの会）」	18：00～20：00 【参加料】6,000円 【会場】ホテルベルフオニート

※事前申し込みが必要です。詳細は若山牧水ホームページをご覧ください。

おもひやるかのうす青き
峡のおくに
われのうまれし朝のさびしさ
牧水

「牧水遺墨展」

秋、冬の短歌をお楽しみください

会期 8月1日（金）～11月30日（日）
会場 第1展示室

明治43年から大正9年の間に詠んだ歌の短冊、半折などを展示しています。

このうち、大正8年冬に詠んだ歌、窓に見る景色あらはに冬寂びて

ただありがたき日のひかりかな

を牧水は短冊と半折に書いています。この歌は第13歌集『くろ土』収録後に改作されており、短冊（右）には改作前、半折（左）には改作後の歌が書かれています。

今回、この2点を並べて展示、改作前後の歌を一度に鑑賞することができます。



若山牧水記念文学館

〒888-0211 宮崎県日向市東郷町坪谷1271番地

【利用案内】
■開館時間■ 9：00～17：00（入館は16：30まで）
【休館日】月曜日（祝日は除く）年末年始（12月29日～1月3日）
【入館料】小・中学生100円 高校生以上310円（20名以上の団体は2割引）
【お問合せ】TEL 0982-68-9511 FAX 0982-68-9512【公式HP】https://www.bokusui.jp

QRコード